

平成 28 年度 P D C A サイクルづくり支援事業 P 調査全県集計結果及び分析報告

教学指導課

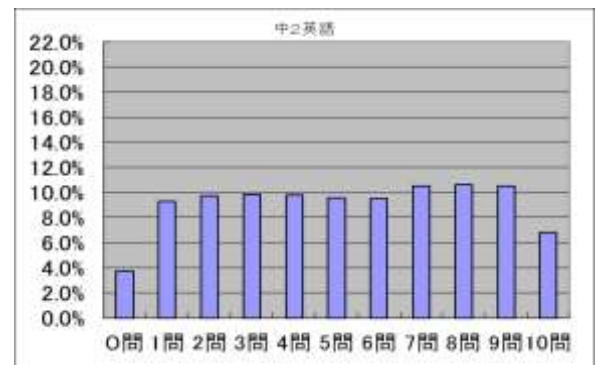
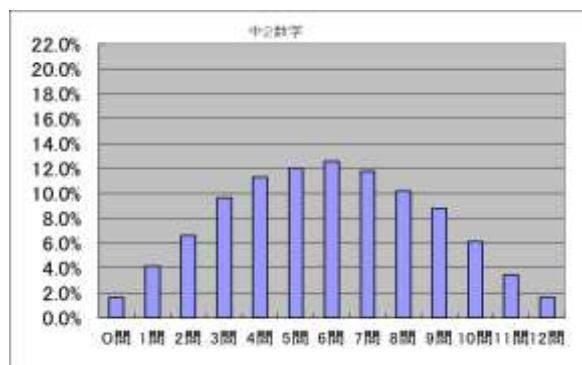
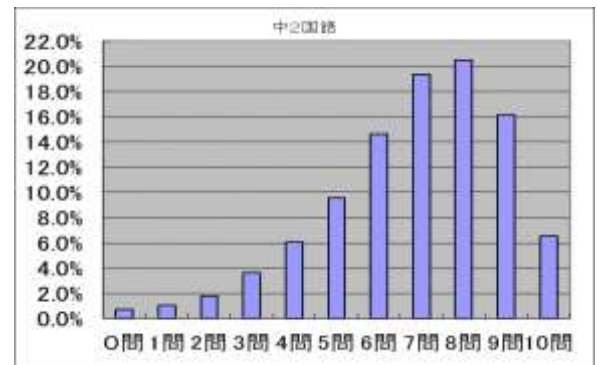
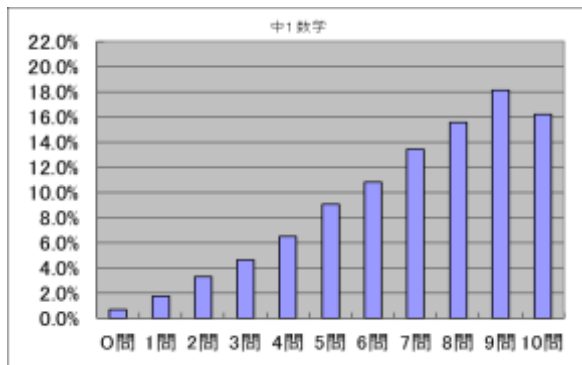
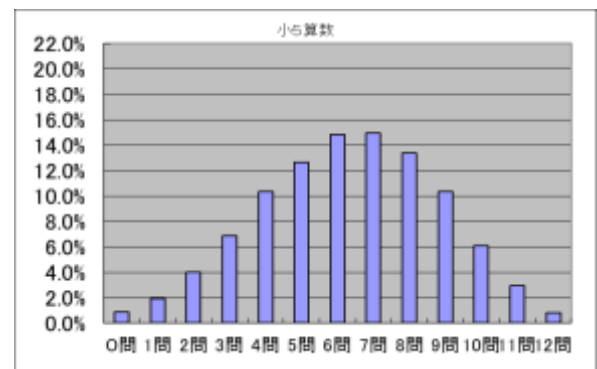
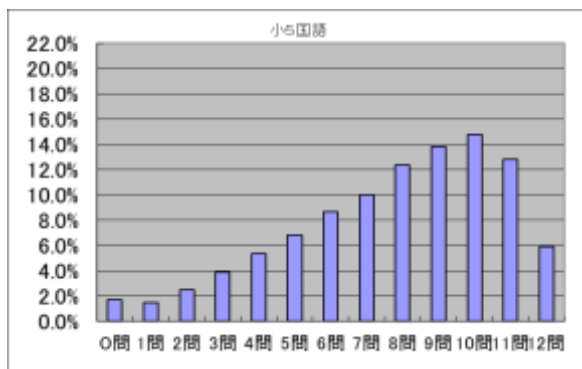
1 調査教科及び調査した児童生徒数

上段：参加人数 下段：参加校数

| | 国語 | 算数・数学 | 英語 |
|---------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 小学校 5 年 | 14,371 人 (78.1%) 303 校 (83.5%) | 14,529 人 (79.0%) 305 校 (84.0%) | |
| 中学校 1 年 | | 13,866 人 (74.1%) 151 校 (82.1%) | |
| 中学校 2 年 | 14,602 人 (75.7%) 156 校 (84.8%) | 14,725 人 (76.3%) 156 校 (84.8%) | 14,516 人 (75.3%) 156 校 (84.8%) |

(参考：全県 小5 18,393 人，中1 18,701 人，中2 19,289 人，小学校 362 校，中学校 183 校，義務教育学校 1 校)

2 正答数の分布グラフ (単位%)



小学校国語は、右寄りのグラフとなり、正答数の多い児童の割合が高くなった。しかし、正答率が 50% 以下となった設問が 2 問あり、ともに活用に関する問題であったことから、声に出して読むときの工夫や表現の工夫を授業に取り入れていきたい。中学校 2 年の数学では、【1】、【2】の正答率がともに 10% 台であったことから、文字を用いて式に表す学習を丁寧に行いたい。中学校 2 年の英語では、H27 年 P 調査と似た形のグラフとなっており、正答数の少ない生徒の割合が高くなっている。

3 正答数の分布 (単位 上段：人，下段：%)

| | 0問 | 1問 | 2問 | 3問 | 4問 | 5問 | 6問 | 7問 | 8問 | 9問 | 10問 | 11問 | 12問 |
|----------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 小5 国語 | 246 | 213 | 357 | 556 | 768 | 979 | 1244 | 1439 | 1775 | 1982 | 2121 | 1840 | 851 |
| | 1.7 | 1.5 | 2.5 | 3.9 | 5.3 | 6.8 | 8.7 | 10.0 | 12.4 | 13.8 | 14.8 | 12.8 | 5.9 |
| 小5 算数 | 129 | 279 | 586 | 996 | 1502 | 1834 | 2159 | 2173 | 1941 | 1502 | 882 | 428 | 118 |
| | 0.9 | 1.9 | 4.0 | 6.9 | 10.3 | 12.6 | 14.9 | 15.0 | 13.4 | 10.3 | 6.1 | 2.9 | 0.8 |
| 中1 数学 | 94 | 242 | 456 | 638 | 902 | 1254 | 1498 | 1865 | 2158 | 2514 | 2245 | | |
| | 0.7 | 1.7 | 3.3 | 4.6 | 6.5 | 9.0 | 10.8 | 13.5 | 15.6 | 18.1 | 16.2 | | |
| 中2 国語 | 105 | 152 | 262 | 531 | 883 | 1396 | 2138 | 2829 | 2997 | 2355 | 958 | | |
| | 0.7 | 1.0 | 1.8 | 3.6 | 6.0 | 9.6 | 14.6 | 19.4 | 20.5 | 16.1 | 6.6 | | |
| 中2 数学 | 241 | 615 | 976 | 1425 | 1666 | 1765 | 1853 | 1735 | 1501 | 1299 | 902 | 509 | 240 |
| | 1.6 | 4.2 | 6.6 | 9.7 | 11.3 | 12.0 | 12.6 | 11.8 | 10.2 | 8.8 | 6.1 | 3.5 | 1.6 |
| 中2 英語 | 545 | 1345 | 1415 | 1433 | 1423 | 1392 | 1381 | 1524 | 1547 | 1524 | 987 | | |
| | 3.8 | 9.3 | 9.7 | 9.9 | 9.8 | 9.6 | 9.5 | 10.5 | 10.7 | 10.5 | 6.8 | | |

4 各問の正答率 (単位%) ○知識に関する問題 ◇活用に関する問題

| | | | | | | | | | | | | |
|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------|-------------|-------------|----------|-------------|-------------|--------------|--------------|
| 小5 国語 | 1一 ア○ | 1一 イ○ | 1一 ウ○ | 1二 ◇ | 2一 ○ | 2二 ○ | 2二 ○ | 2三 ◇ | 2四 ◇ | 伊藤 ○ | 田中 ○ | 藤村 ○ |
| | 85.0 | 85.2 | 73.2 | 46.4 | 52.3 | 84.5 | 63.0 | 34.3 | 51.7 | 68.9 | 66.6 | 66.8 |
| 小5 算数 | 【1】 (1)○ | 【1】 (2)○ | 【1】 (3)○ | 【1】 (4)○ | 【2】 ○ | 【3】 (1)○ | 【3】 (2)○ | 【4】 ○ | 【5】 (1)○ | 【5】 (2)○ | 【6】 ◇ | 【7】 ◇ |
| | 66.7 | 82.9 | 63.5 | 85.6 | 71.2 | 10.8 | 48.3 | 22.0 | 53.5 | 59.2 | 21.2 | 46.5 |
| 中1 数学 | 【1】 (1)○ | 【1】 (2)○ | 【2】 ○ | 【3】 ○ | 【4】 ○ | 【5】 ◇ | 【6】 ○ | 【7】 ◇ | 【8】 ◇ | 【9】 ◇ | | |
| | 80.9 | 79.0 | 61.9 | 57.3 | 57.9 | 63.4 | 83.9 | 87.0 | 74.6 | 56.1 | | |
| 中2 国語 | 1一 ○ | 1二 ◇ | 1三 ア◇ | 2一 ア○ | 2一 イ○ | 2二 ア◇ | 2二 イ◇ | 3一 ○ | 3二 ○ | 3三 ◇ | | |
| | 86.7 | 48.1 | 50.1 | 95.9 | 67.3 | 64.4 | 76.8 | 59.8 | 84.5 | 52.2 | | |
| 中2 数学 | 【1】 ○ | 【2】 ○ | 【3】 ○ | 【4】 ◇ | 【5】 ○ | 【6】 ○ | 【7】 ○ | 【8】 ○ | 【9】 (1)◇ | 【9】 (2)◇ | 【10】 (1)○ | 【10】 (2)◇ |
| | 19.9 | 17.5 | 54.0 | 68.5 | 61.2 | 64.5 | 37.0 | 70.2 | 70.3 | 50.1 | 36.1 | 40.0 |
| 中2 英語 | 【1】 ○ | 【2】 ○ | 【3】 ○ | 【4】 ○ | 【5】 ◇ | 【6】 ○ | 【7】 ○ | 【8】 ○ | 【9】 ○ | 【10】 ◇ | | |
| | 59.2 | 91.1 | 56.5 | 68.2 | 30.8 | 55.9 | 48.7 | 39.7 | 35.6 | 38.1 | | |

5 知識に関する問題と活用に関する問題の正答率（単位％）

| | 小5国語 | 中2国語 | 小5算数 | 中1数学 | 中2数学 | 中2英語 |
|----------|------|------|------|------|------|------|
| 知識に関する問題 | 71.7 | 78.9 | 56.4 | 70.1 | 45.0 | 56.9 |
| 活用に関する問題 | 44.1 | 58.3 | 33.8 | 70.3 | 57.3 | 34.5 |

小学校では、知識に関する問題と活用に関する問題の正答率に大きな開きがある。授業において、身に付けた知識を用いて問題を解決していくような場面や学習問題を意図的に取り入れていく必要がある。後ほど示す各教科・学年の課題と指導改善の方向を参考にして、授業改善を進めていきたい。

知識に関する問題では、一部で定着が不十分なものが見られる。P調査問題は、昨年までの学習内容なので、補充・補完指導を速やかに行い、確実に知識が身に付くようにしたい。確かな理解を深める授業を行っていくとともに、クリア問題、レビュー問題等（総合教育センターホームページ「学びの広場」参照）を活用して、さらに確実に学習内容を定着させることが必要である。

6 P調査結果から見えた課題と授業改善のポイント

P調査結果で見えた課題

- ・ 文章の内容を正確に捉え、目的や意図に応じて、適切に答えること。
- ・ 与えられた情報から必要な情報を選択、整理し、筋道を立てて考えること。

授業改善のポイント

- 1 文章を丁寧に読み取り、どのような内容が書かれているのかを明確にする活動を取り入れましょう。そして、何を問われているのかを判断し、適切に答えるための過程を大事にしていきましょう。
 - ・ どのような内容が書かれている文章なのかを、図を用いて説明させたり、グループ活動の中で互いに説明し合ったりすることで、理解が深まります。
- 2 与えられた情報の中から、課題を解決するために必要な情報や、その情報が何を意味しているのかを整理する活動を取り入れましょう。
 - ・ 課題を解決するために与えられた情報を丁寧に整理していくことで、その情報をどのように使えばよいのか、また、その情報を利用して考えを深めていくことにつながります。
- 3 これらのことを、小・中学校ともに、全教科で取り組むことが大切です。
 - ・ P調査で実施した教科に限らず、各教科及び学級の授業改善がさらに進むよう取組を見直しましょう。

7 各教科・学年において課題となった問題と指導改善の方向

(1) 中学校1年数学

【2】正答率 61.9%

① 課題

小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係について理解すること

- ・主な誤答例 1.2 で割った商が除数より多くなると考え、ウを解答に入れた誤答が 9.9%

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題:小5・④-1-2の活用

H26 P 調査【2】 57.9%

H27 P 調査【2】 60.4%

これから学習する児童・生徒への指導

小学校5年

- ・教科書 P42 「積の大きさ」 教科書 P58 「商の大きさ」

数直線や図などを用いたり、具体的な場合にあてはめたりしながら、乗数と積の大きさや除数と商の大きさの関係を調べる活動を取り入れましょう。

本問題を解決する際に有効な手だての一つとして、簡単な場合に置き換えて考えることができます。文字式の指導の場合でも、文字を具体的な数に置き換えて考える活動を通して、生徒が解決する手がかりをもてるようにしていきましょう。

【3】正答率 57.3%

① 課題

示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択すること

- ・主な誤答例 二等辺三角形についての知識が不十分であるため、ウと答えた誤答が 21.1%

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題:小3・③-1-1の活用

レビュー問題:小3・⑨-1-1・3の活用

H27 全国学調 算数 A 5 48.4%

これから学習する児童・生徒への指導

小学校3年

- ・教科書下 P2 「三角形」

コンパス等を使って図形を構成するなどの活動は、子どもにとっては楽しいものであります。しかし、活動だけに意識が向いてしまい、図形を構成するねらいや目的が不明確な学習となる場合もあります。子どもがねらいをもって活動し、図形の性質などで明らかになったことをまとめたり確かめたりする場面を設定していきましょう。

【4】正答率 57.9%

① 課題

商が1より小さくなる等分除「整数÷整数」の場面で、除法が用いられることを理解すること

- ・主な誤答例 被除数と除数の関係のとらえが不十分で、 $8 \div 4$ と答えた誤答が34.8%

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題：小5・⑫-1-3の活用

H26 P 調査【4】 54.9%

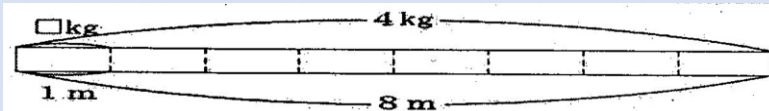
H27 P 調査【4】 56.9%

これから学習する児童・生徒への指導

小学校5年

- ・教科書P156「分数と小数・整数の関係」

商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面では、何が被除数で何が除数かをとりえて立式できるようにすることが必要です。そのために、指導にあたっては示された数量を図に表す活動を取り入れ、数量の関係を考え「 $4 \div 8$ 」と立式できるようにしていきましょう。



【9】正答率 56.1%

① 課題

示された情報を基に必要な量と残りの量との大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述すること

- ・主な誤答例 類型1から類型5以外の解答あるいは無回答が35.5%

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

H26 全国学調 算数B ③(3) 30.6%

H27 P 調査【9】 60.1%

これから学習する児童・生徒への指導

小学校5年

- ・教科書P25「体積と比例」 教科書P146「単位量当たりの大きさ」

問題を解決した過程を説明する際には、問題(文章や図、表、グラフ等)から必要となる情報を選択するとともに、根拠となる事実を関連付けて、判断の理由を明確にすることが大切です。

「10人分のスープの量が2L」「20人に必要なスープの量が4L」「10人に分けた後の残りのスープが7L」などの情報を的確に求めることと、それらの情報を比較し、スープが残ることを説明していく場面を授業で設定したり、よりよい表現を児童とともに洗練していく活動を取り入れたりしていきましょう。

(2) 中学校2年国語

1二 正答率 48.1%

①課題 「A 話すこと・聞くこと」

話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たすこと

- ・二つの意見に共通する「全校の生徒」という内容でまとめていない生徒が約25%いる。
- ・無解答の生徒が約5%いる。

②指導改善の方向

- ・話し合いの指導を行う際は、自分の考えを参加者に分かりやすく伝えることができるよう立場を明確にするとともに、考えの理由を明らかにして話すように指導することが大切である。そのためには、いくつかの異なる意見が出るようなテーマを設定して話し合いを行うことが考えられる。

- ・授業では、司会者が以下の役割を意識できるように指導する必要がある。
 - ①話し合いの目的を明確にすること
 - ②参加者それぞれに発言の機会を与えること
 - ③必要に応じて発言の内容を確認したり不足している情報を聞き出したりすること
 - ④話し手や聞き手の様子を見て、次にどのような話し合いを進めるか判断すること
 - ⑤話し合いの内容を整理したり結論を確認したりすること

③過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成26年度 全国学力・学習状況調査A6一 54.9%

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題小6・7月

1三 正答率 50.1%

①課題 「A 話すこと・聞くこと」

相手の話を踏まえて質問すること

- ・早川さんの発言のどの内容を取り上げているのか明確になっていない生徒が約20%いる。

②指導改善の方向

- ・対話や討論などを通して聞くことの指導を行う際には、聞く場面を工夫する必要がある。例えば、対話や討論などを第三者として聞く場面を設定することが考えられる。その際、話が目的に沿って展開しているか、話し手は考えや意図を明確にしながら話しているかなどを捉えさせたり考えさせたりすることが大切である。

- ・授業では次の点を大切にしましょう。

- ①対話や討論などの内容を基に自分の考えを伝えたり質問したりする際には、話し合いの具体的な内容を取り上げて、話題に対する自分の考えや質問を明確にすること。
- ②協議する議題やテーマに応じて、必要な図表やグラフなどの資料を基に対話や討論を行うこと。

③過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成25年度 全国学力・学習状況調査A1二 55.2%

補充・補完指導をしましょう

チャレンジ問題中2・8月

3一 正答率 59.8%

①課題 「C 読むこと」

文章の内容を正確に捉えること

- ・要約文（ブックリスト）に書かれている内容を読み取れない生徒が約 40%いる。

②指導改善の方向

- ・読書について指導する際には、本の表紙や帯などに、その本の内容や特徴などに関わる情報があることに気付かせ、日常生活において本を選ぶときの手がかりとなることを理解させる必要がある。

3三 正答率 52.2%

①課題 「C 読むこと」

文章に書かれている事柄を基に、今までの体験や読書の経験と結び付けて自分の考えを書くこと

- ・今までの体験や読書の経験と結び付けて書いていない生徒が約 20%いる。
- ・無解答の生徒が約 10%いる。

②指導の改善の方向

- ・文章を読んで自分の考えを明確にもたせるためには、単に印象を述べるにとどまらず、これまで身に付けてきた知識や自分の体験などと関連付けて具体的に書かせることが大切である。

- ・授業では、以下のような言語活動が有効である。

【第一時】

- ①印象に残る本を数冊あげ、自分の今までの読書傾向を知る。

【第二、三時】

- ②自分の読書傾向について友だちと情報交換をする。
☆互いに情報交換をする際には、なぜその本を読むようになったのか、そのきっかけや理由について具体的に話し合うようにする。

- ③情報交換したことを基に、これから読みたい本について考える。
☆友だちからの情報や教科書の読書案内などを参考にブックリストを作る。その際、**学校図書館の本**を実際に手に取ってみたい、**インターネット**から情報を得たりするのも有効です。

- ④「これから読みたい本」のブックリストを作り、挙げた本を選んだ理由をまとめる。
☆挙げた本を選んだ理由を書く際には、「**今までの体験や読書の経験**」と結び付けて書いたり、友だちとの交流とを結び付けて書いたりするようにする。

【第四時】

- ⑤ブックリストの本を一冊選んで読み、感想を書く。

③過去に同じねらいで出題された問題の正答率

- ・平成 26 年度 全国学力・学習状況調査 B **2**三 66.2%

補充・補完指導をしましょう

ファイナルチェック問題中 **22**の三

(3) 中学校2年数学

【1】正答率 19.9%

① 課題

文字の値が整数の時に、式の値について考察すること

- ・主な誤答例 0は4aで表すことができないと考えたり、整数に0が含まれないと考えたりして、-4と8のみを解答した誤答が20.5%ある。

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題: 中1・②-1-3 の活用
H24年度全国学調 A2(3) 正答率 36.7%
H27P調査【1】正答率 20.1%

これから学習する児童・生徒への指導

中学校1年

- ・教科書 P63 「式の値」

「式の値」の学習では、式の中の文字に数を代入して、その値を求めるとともに、ある数が、式にどのような数を代入することで表すことができるかを考察することも扱い、文字式の理解が深まるようにしましょう。

【2】正答率 17.5%

① 課題

数量の関係を文字に表すこと

- ・「倍」という表現が含まれることから、「 $a \times \frac{3}{7}$ (cm)」と立式し、「 $\frac{3}{7}a$ (cm)」と解答した誤答が56.5%ある。

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題: 中1・②-1-1 の活用
レビュー問題: 中1・②-1-2 の活用
H27年度全国学調 A2(2) 正答率 18.4%

これから学習する児童・生徒への指導

中学校1年

- ・教科書 P61 「文字式の表し方」

数量を文字式に表す学習では、関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、その関係を文字式に表す活動を取り入れましょう。その際、割合を含む関係を文字式に表す場合は、基にする量と比べる量の区別をつけて関係を捉えることができるようにしましょう。

小学校5年

- ・教科書 P171 「割合」

算数・数学ブラッシュアップシリーズ 小5 12月(割合)を参考に授業をしてみましょう。

【10】（1）正答率 36.1%

① 課題

与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること

- ・主な誤答例 もとにする量と比べる量が区別できていないために、「 $305 \div 201$ または $305 \div 201$ を用いた式」を解答した誤答が 9.5%ある。

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題: 中1・⑦-1-1 の活用

レビュー問題: 小5・⑬-1 の活用

H27 年度全国学調 B 5(1) 正答率 37.8%

これから学習する児童・生徒への指導

中学校 1 年

- ・教科書 P206 「度数分布」

度数分布表から相対度数を求める学習では、階級を示して求める活動だけでなく、目的を明確にした上で、必要な情報を選択し、求める方法を説明する活動なども位置付けましょう。

【10】（2）正答率 40.0%

① 課題

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

- ・主な誤答例 グラフからの読み取りにおいて、階級の解釈を誤っていると考えられる解答類型 7 の誤答が 9.1%ある。

② 指導改善の方向

この調査を受けた児童・生徒への補充・補完

レビュー問題: 中1・⑦-1-4 の活用

H27 年度全国学調 B 5(2) 正答率 24.3%

これから学習する児童・生徒への指導

中学校 1 年

- ・教科書 P218 「調べたことをまとめ、発表しよう」

目的に合わせて資料を収集、整理して、その傾向を考察する学習では、一つの代表値だけで判断するのではなく、資料の分布の特徴と関連付けて見たり、他の代表値を用いて傾向を捉えたりできるようにしましょう。

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査 授業アイデア例「落とし物を減らす対策を考えよう」を参考に授業をしてみましょう。

(4) 中学校 2年英語

【5】正答率 30.8%

①課題

本文の内容を理解し、文中には明確に出ていない内容を適切に答えること

- ・「I study Japanese.」と解答している生徒が約 28%いる。解答類型の「上記以外の解答」が約 25%、無解答が約 16%である。質問「What foreign language do you study?」の意味が理解できていない、「日本人の Ken」の立場で解答するという意味が理解できていない、などの理由が考えられる。

②指導改善の方向

Point!

- ・wh-疑問文とその応答に慣れるため、毎時間帯学習として定型文が書かれたワークシートを用いた生徒同士の口頭練習の場を位置付ける。
- ・本文には明確に書かれていない内容を問う質問をする。その際、生徒の意図や英語表現を尊重しつつ、より適切かつ文法的に正確な表現に高めていくように支援する。

指導改善を進めましょう

過去に同じねらいで出題された問題なし

【8】正答率 39.7%

①課題

本文の内容について、yes-no で答える質問を理解し、適切に答えること

- ・Yes ～と解答しているものが約 30%、No, she ～ と解答しているが、最後が didn't でないものが約 4%、無解答が約 14%から、一般動詞の文型（3人称・過去）の理解が不十分と考えられる。

②指導改善の方向 ～yes-no 疑問文を使った言語活動において～

- 1 be 動詞と一般動詞の yes-no 疑問文、またその応答文を、時制や人称に注目しつつ理解を促す。その際、複数の疑問文(または応答文)を板書等で比較し、共通点や相違点を強調する。
- 2 yes-no 疑問文とその応答文を使う言語活動では、ワークシートなどの文字表記を見ないで対話をする場面も設定し、上記 1 に倣って、生徒が英文を考えながら発話するよう促す。

Point!

- ・wh-疑問文を使う言語活動では、yes-no 疑問文とその応答文を使う場面も設定し、活用場面を増やすことで文型の定着を図りましょう。
- ・様々な文型を導入する場面では、時制や人称に注目して英文を考えるよう促しましょう。

指導改善を進めましょう

平成 27 年度 P 調査【3】正答率 54.8% 活用

【9】正答率 35.6%

①課題

本文の内容について、疑問詞を使った質問を理解し、適切に答えること

- ・ She (Ami) like sumo と解答しているものが約 14%，Yes ～/No～と解答しているものが約 9%，無解答が約 16%から、wh-疑問文についての理解が不十分と考えられる。

②指導改善の方向 ～教科書本文における wh-疑問文の活用～

- 1 教科書本文中から、問題文にある複数の単語が使われている英文や、答えにかかわる内容の英文等を見つけ、印をつける。
- 2 覚えている基本文型の中から、答えとして適切な英文を選ぶ(思い出す)。
- 3 上記2の英文の語順に注意しつつ、問題文に対して適切な答えとなるよう、「代名詞」「動詞の変化形」を観点に適切な文字表記をする。

Point!

- ・ 2・3の段階を「速くかつ正確に」できるよう、基本文型の指導では、①語順②使用場面③品詞で理解するよう促しましょう。対話活動では、単語の変化形を基に英文をつくる活動を仕組み、基本文型に慣れてきた時期には、速く答えることも活動条件に加えましょう。

指導改善を進めましょう

平成 27 年度 P 調査【4】正答率 38.4% 活用

【10】正答率 38.1%

①課題

身近な場面について書く内容を構想し、条件に従って正しく英語 1 文で書くこと

- ・ 条件を満たしていないが、内容的には理解できる 1 文を書いている生徒が約 22%いる。解答類型の「上記以外の解答」が約 20%，無回答が約 18%である。

②指導改善の方向

Point!

- ・ 「まとまりのある文を正しく書く」ために、段階を踏んで指導する。

【指導例】

- ①生徒が書く必要感がもてる場を設定した上で、書く活動を位置付ける。
- ②教科書本文をもとに書く型を示したり、教師のモデルから活用できる表現に気付かせたりするなどして書く見通しがもてるようにする。
- ③文の完成後は、観点を明確にして生徒同士で読み合ったり、教師が添削をしたりして、生徒が英文の内容や構成、正しさに目を向けるような場を位置付ける。
- ④英文を正しく書く力の定着を図る。
 - ・ 完成した英文を読んだり発表したりする活動を位置付け、文の語順や英文同士のつながりなどに着目できるよう指導する。
 - ・ 家庭学習は、授業で学習した内容をもとに課題を出す。

指導改善を進めましょう

平成 27 年度 C 調査【10】正答率 33.7% 活用